

北陸地域の農業をめぐる情勢について

1 北陸地域の「食」と「農」の姿

北陸農政局は、新潟県、富山県、石川県及び福井県の4 県を管轄している。

地形は、日本海に面して細長く、新潟県から福井県まで東西約 400km に及び、背後に越後山脈・三国山脈・飛騨山脈(立山連峰)・両白山地(白山連峰)等の急峻な山々が迫っている。

河川は、新潟平野に信濃川・阿賀野川、富山平野に黒部川・神通川・庄川、加賀平野に手取川、福井平野に九頭竜川等が貫流している。

気候は、夏季は高温・多照である一方、冬季は多雪・寒冷で日照時間は太平洋側の半分程度と少なく、特に新潟県の上越・中越地方や山間部は豪雪地帯となっている。

この豊富な雪解け水を活用してかんがい用水を整備するとともに、沖積低地には排水改良を行うことにより、全耕地の約9 割が水田となっている。

このため、日本の代表的な穀倉地帯として、稲作が盛んに行われている。

◇ 新潟県

耕地面積(平成 24 年度)は全国3 位^[1] で米の生産量(平成 24 年度)は全国1 位^[2] である。

多様な気候風土を活かした野菜(えだまめ・さといも・なす・すいか)、果実(かき・日本なし・もも)、花き(ゆり切り花・球根類)が生産されている。

特に、えだまめは県をあげて生産・流通体制を整え、「新潟茶豆」として県内はもとより京浜方面の市場へ出荷されている。

また、佐渡のかきは「おけさ柿」として、全国的にも有名である。

◇ 富山県

耕地のうち水田(平成 24 年度)が 96%^[1] を占めることから、米が主体の営農が展開されている。

砺波平野を中心としたチューリップ栽培は、大正時代に水田の有効活用のため始められ、全国有数の産地である。

また、県を東西に二分する呉羽山の西側丘陵地帯で栽培される日本なしは「呉羽なし」のブランドとして知られている。

◇ 石川県

県南部の加賀地域では、米が主体であるが、海岸沿いの砂丘地ではだいこん、すいか等の野菜、山間部では日本なし等の果樹が生産されている。

県北部の能登地域では半島独特の気候、土壌を活かし、かんしょ、かぼちゃ等の野菜が生産されている。

また、ぶどうのオリジナル品種「ルビーロマン」は、果粒の大きさが巨峰の約2 倍で、糖度も高く、特産化に向け生産拡大を目指している。

◇ 福井県

県発祥であるコシヒカリを中心とした米のほか、六条大麦、大豆、そばが生産されている。

特に六条大麦は、作付面積(平成 24 年産)が全国1 位^[2] である。

県東部の大野盆地では、昼夜の気温差が大きい気候を活かして「さといも」が栽培されている。小振りで身が締まり、煮崩れしない特徴があり、全国的に高い評価を得ている。

県西部では、雪解けが早く春先の気温が高い若狭町等を中心に「うめ」が栽培されている。

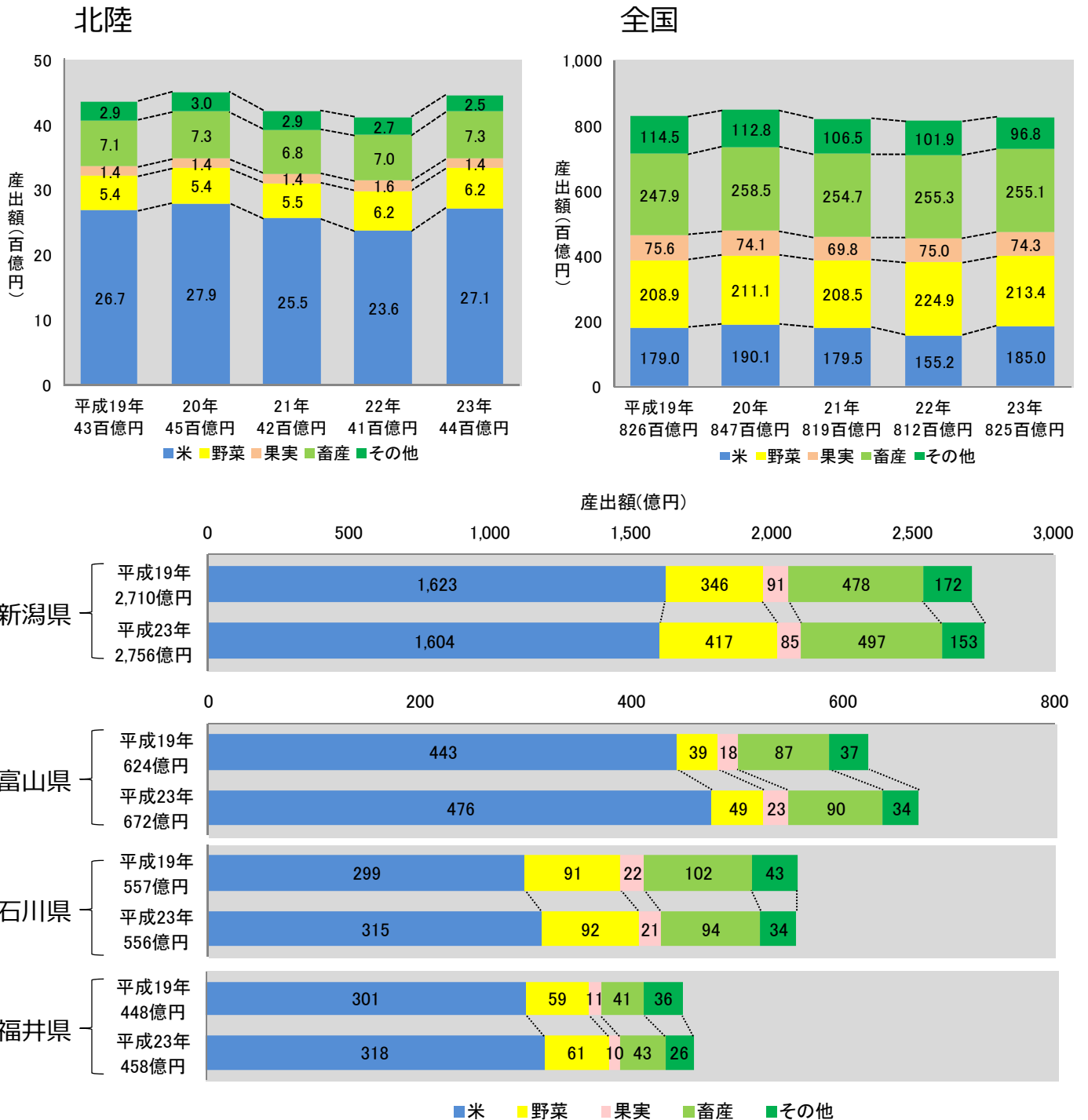
2 農業算出額の動向

平成23年の農業算出額に占める米の割合は61%で、全国(22%)と比べて非常に高くなっている。

特に新潟県は、米の産出額が1,604億円で、全国1位である。

また、農業生産額の全国順位をみると、新潟県が9位、富山県が40位、石川県が43位、福井県が44位となっている。

農業産出額の推移



データの出典: [1]農林水産省「生産農業所得統計」、全国値については農業総生産額である。

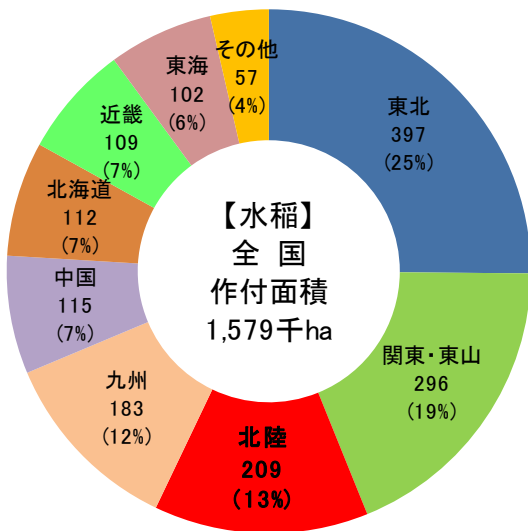
3 北陸地域の農業生産と求められる技術開発

(1) 水稻

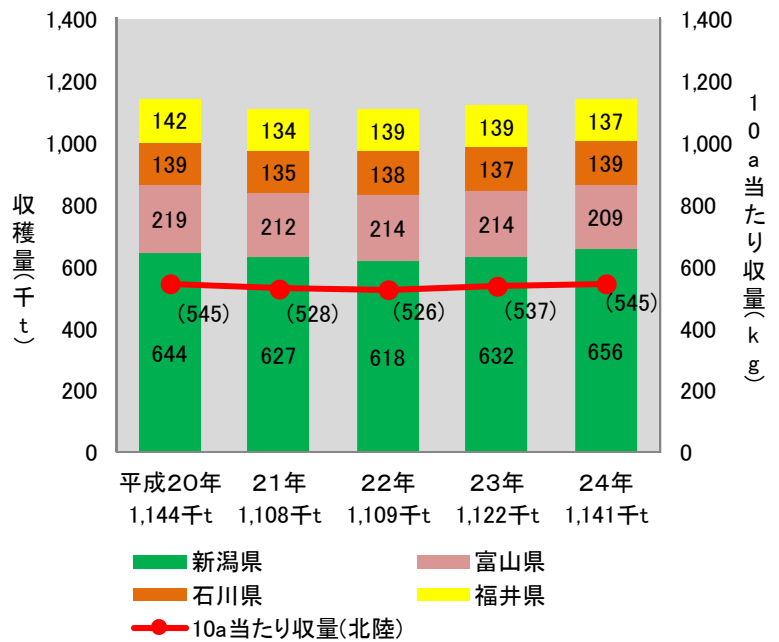
平成24年産の水稻作付面積は20万9,400ha、収穫量は114万1,000t^[1]で、作付面積、収穫量ともに全国(157万9,000ha、851万9,000t)の13%を占めている。

品種では、主力のコシヒカリが大半^[2]を占めているが、単一品種の作付集中により気象被害の影響を受けやすくなることや農作業時期が集中する等の課題がある。

水稻の作付状況^[1]



水稻収穫量(北陸)の推移^[1]



水稻うるち玄米品種別の検査数量(上位5品種)^[2]

地域	1位		2位		3位		4位		5位	
	品 種 名	検査数量	品 種 名	検査数量	品 種 名	検査数量	品 種 名	検査数量	品 種 名	検査数量
北 陸	コシヒカリ	534,536	こしいぶき	87,494	ハナエチゼン	31,449	ゆめみづほ	20,537	てんたかく	18,391
新 潟 県	コシヒカリ	305,652	こしいぶき	87,494	ゆきん子舞	14,861	ゆきの精	2,168	ひとめぼれ	1,823
富 山 県	コシヒカリ	118,776	てんたかく	18,391	てんこもり	4,995	ミルククイーン	881	夢ごこち	126
石 川 県	コシヒカリ	67,235	ゆめみづほ	20,537	ほほほの穂	2,941	能登ひかり	2,173	ハナエチゼン	1,711
福 井 県	コシヒカリ	42,872	ハナエチゼン	29,693	あきさかり	8,637	イクヒカリ	2,862	キヌヒカリ	414

データの出典:[1]農林水産省「作物統計」、[2]農林水産省「平成24年産米穀検査結果(平成25年3月31日)」

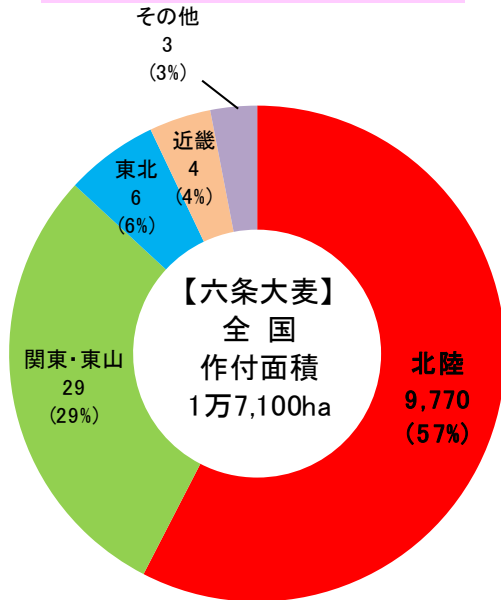
求められる技術開発の主な内容

- ・加工適性に優れた多用途向け品種、良食味安定多収品種、直播適性品種、高温耐性品種など水稻品種の開発
- ・水稻の多収栽培技術、省力低コスト生産技術、安定的な直播技術等の開発
- ・高温障害の発生メカニズムの解明、高温条件下における水稻の高品質、安定生産技術の開発
- ・水稻作を中心とした水田輪作体系の基盤技術の開発(大豆・麦類の収量低下要因の解析、低コストな土壌改良技術、高収益水田輪作システムの確立など)

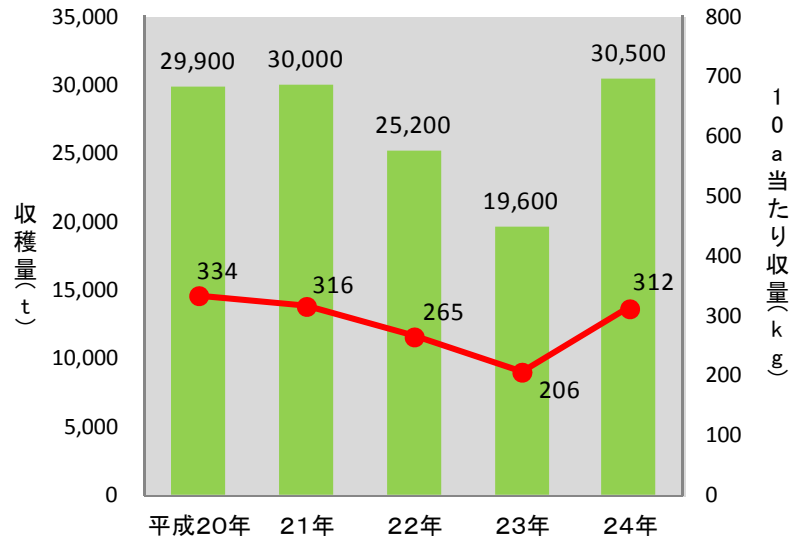
(2) 麦類

平成24年産の麦類作付面積のうち、六条大麦の作付面積は9,770ha、収穫量は3万500t^[1]であった。これは全国の作付面積（1万7,100ha）の57%、収穫量は全国の収穫量（4万7,800t）の64%を占めている。また、小麦の作付面積は163ha、二条大麦が8haで、裸麦は作付けがなかった。北陸地域における大麦生産は、湿害の発生や冬期間の気象条件等の制約が大きく、単収及び品質は不安定な状況にある。

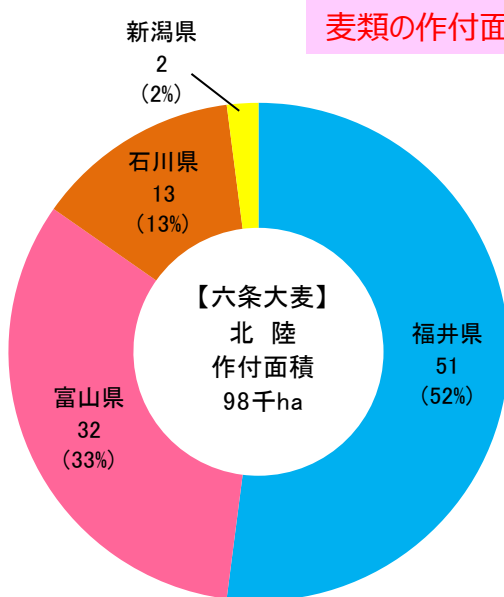
六条大麦の作付状況^[1]



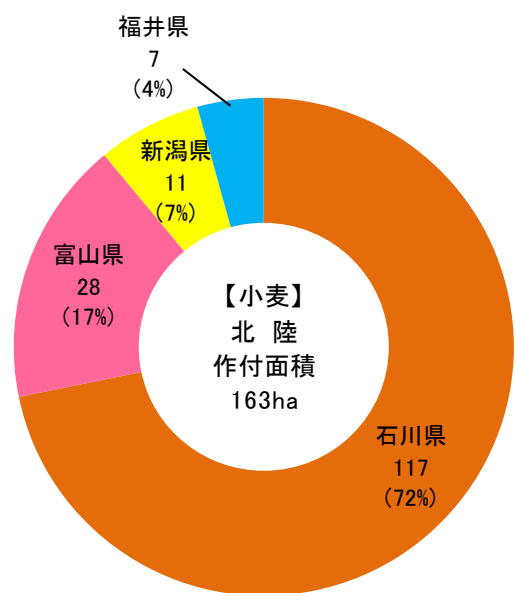
六条大麦の収穫量の推移^[1]



麦類の作付面積^[1]



北陸 10a当たり収量



データの出典:[1]農林水産省「作物統計」

求められる技術開発の主な内容

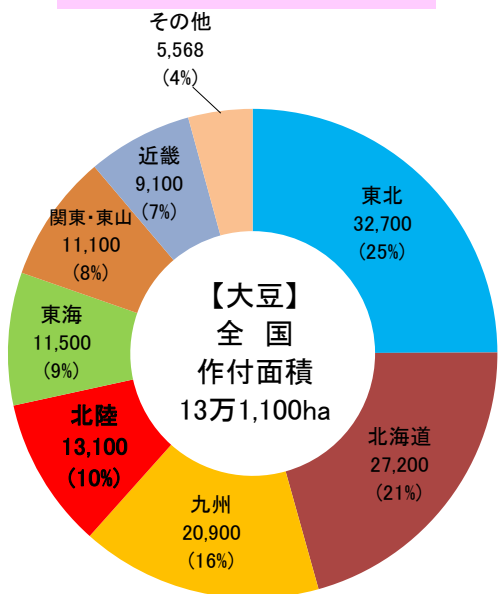
- ・大麦の高品質、省力低コスト、安定多収栽培技術(耐病性+耐雪性+耐湿性に優れた新品種と栽培技術)の開発
- ・硝子粒発生メカニズムの解明と低減技術の開発

(3) 大豆

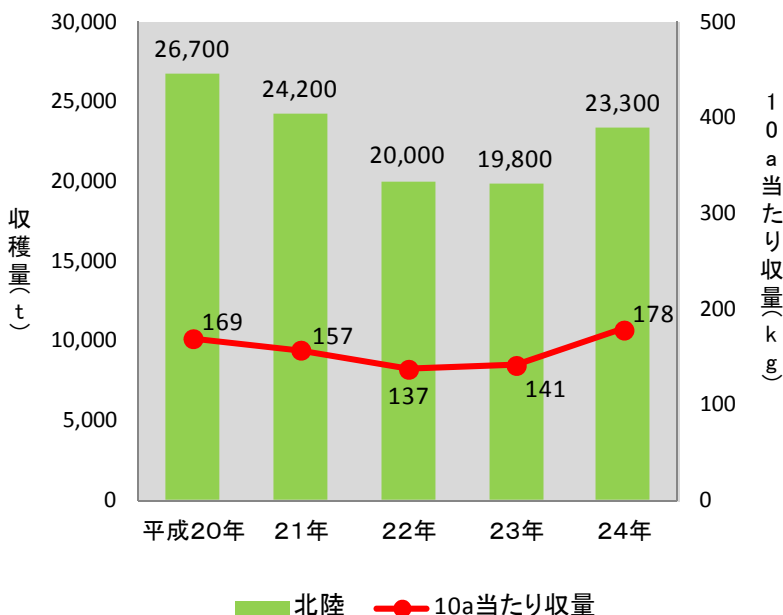
平成24年産の大豆の作付面積は1万3,100ha、収穫量は2万3,300t^[1]であった。作付面積及び収穫量は全国(13万1,100ha、23万5,900t)の10%を占めている。

また、豆腐向けのエンレイが主で、北陸地域には排水性の悪い重粘土質の土壌が多く分布していることから、湿害の影響を受けやすく、収量・品質にばらつきが見られる。このことから、安定した生産量の確保と上位等級比率の向上が課題となっている。

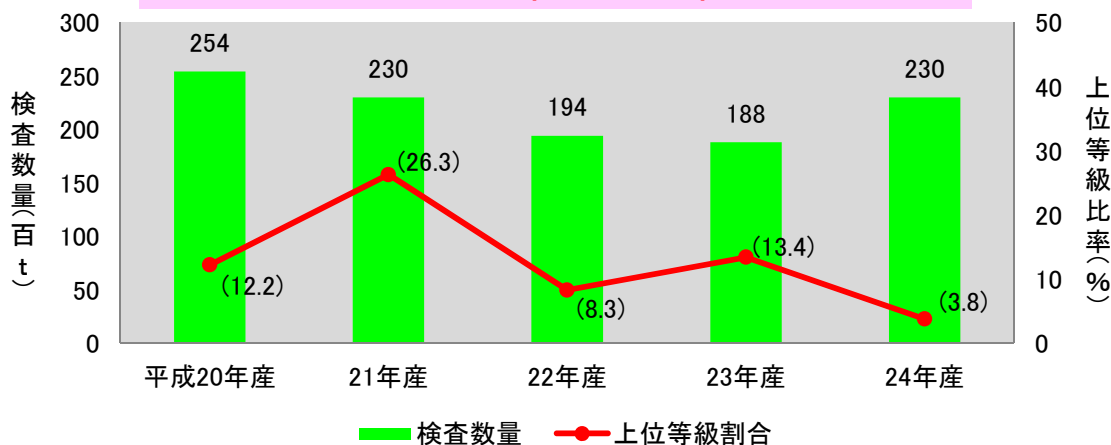
大豆の作付状況^[1]



大豆の収穫量の推移^[1]



北陸 大豆の検査数量と上位等級(1, 2等級)比率の推移^{[2][3]}



データの出典:[1]農林水産省「作物統計」、[2]農林水産省生産局「大豆の農産物検査結果」、[3]種子用大豆を除く

求められる技術開発の主な内容

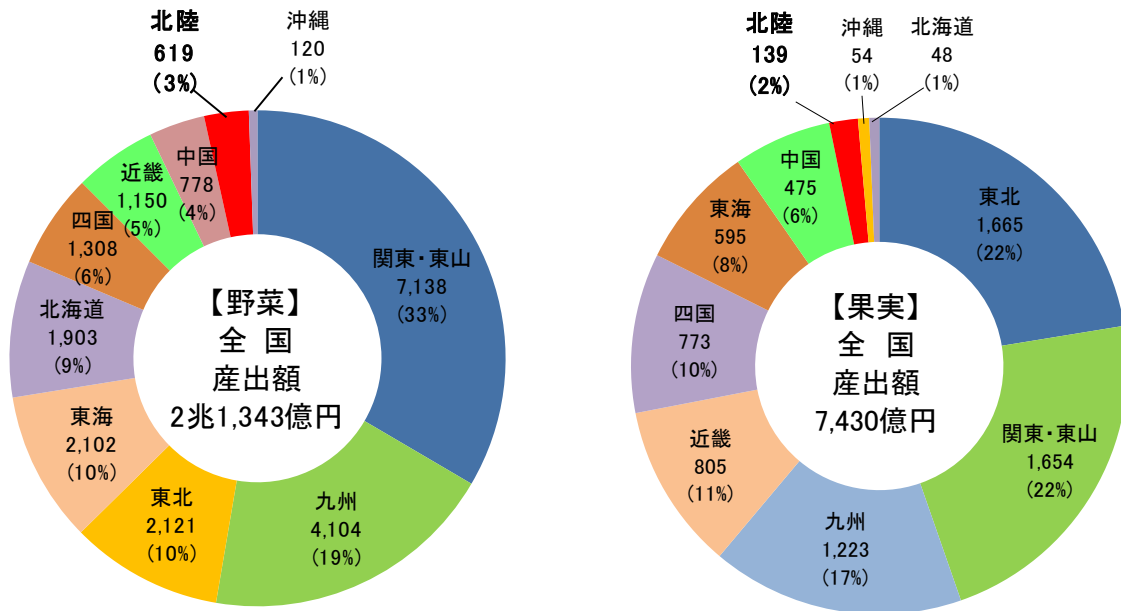
- ・しわ粒発生防止技術、湿害軽減技術など高品質、安定多収技術の開発
- ・主要品種「エンレイ」に代わる新品種の導入、栽培技術の開発
- ・省力低コスト生産技術、雑草・病虫害制御技術の開発

(4) 野菜・果実

平成23年の野菜産出額は619億円、果実産出額は139億円^[1]で、全国に占める割合は野菜が3%、果実が2%である。

また、野菜・果実ともに産出額の全国順位は低いですが、各県において地域の特色を活かした生産振興とブランド化などに取り組んでいる。

野菜・果実の産出額の状況⁽¹⁾⁽²⁾



平成24年北陸の野菜・果実の作付(栽培)面積、収穫量、出荷量⁽³⁾

	作付面積	収穫量	出荷量
だいこん	2,360	79,400	48,400
ばれいしょ	1,480	24,000	4,250
ねぎ	1,200	21,100	14,100
さといも	1,110	13,100	6,170
なす	1,100	16,600	4,960

	栽培面積	結果樹面積	収穫量	出荷量
かき	1,470	1,394	14,930	12,879
日本なし	906	893	20,720	19,250
くり	(614)	(586)	(459)	(237)
ぶどう	(560)	(539)	(4,630)	(3,970)
もも	(314)	(287)	(3,340)	(2,820)

データの出典: [1]農林水産省「生産農業所得統計」、[2]農林水産省「野菜生産出荷統計」「果樹生産出荷統計」「耕地及び作付面積」、()内の数字は、周年(5年)調査のため平成21年産の値

求められる技術開発の主な内容

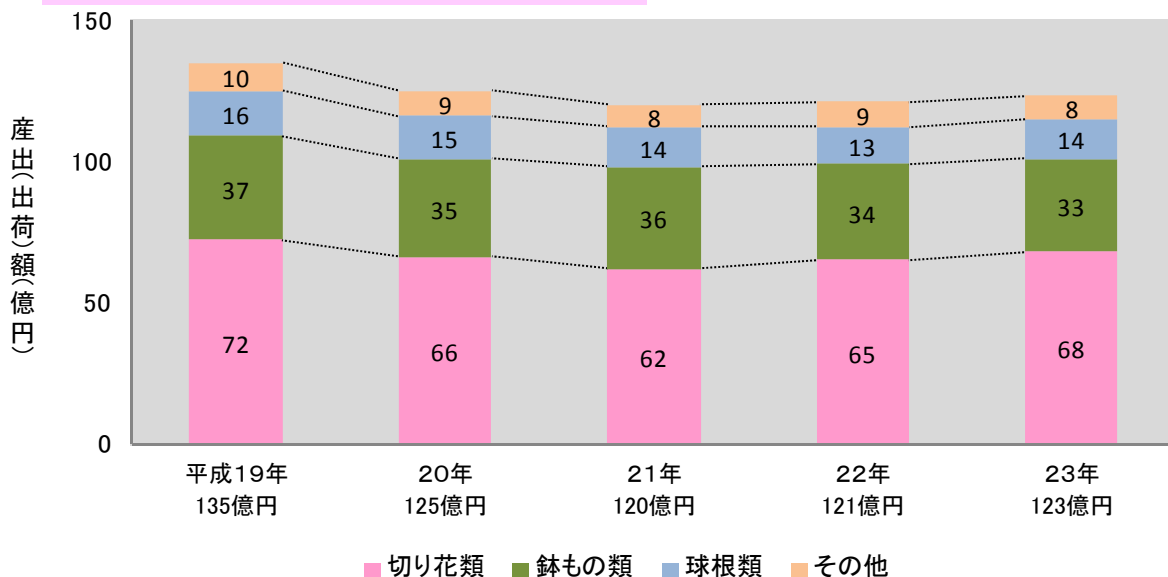
- ・水田輪作における野菜生産技術の確立、露地野菜における病虫害防除、IPM技術など野菜の安定生産技術の開発
- ・早期成園化、多収技術など果樹の高品質・安定生産技術の開発
- ・高温・温暖化対応技術、生理障害対応技術など気象変動リスク対応技術の開発

(5) 花き

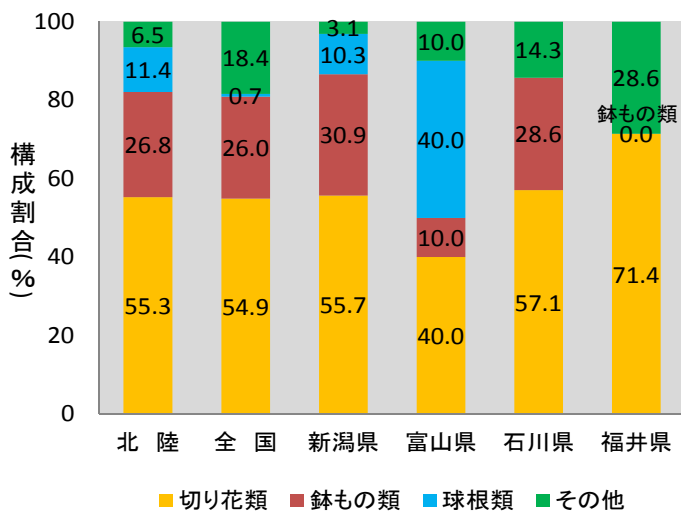
平成23年産の花き産出(出荷)額^[1]は123億円で、平成19年産(135億円)と比べて12億円(9%)減少している。一方、栽培面積を見ると、新潟県のゆり(切り花)、球根類、富山県の球根類は全国に占める割合が高くなっている。

また、石川県では葉ぼたんやフリーズア、福井県ではすいせんやきくなどの生産振興に取り組んでいる。

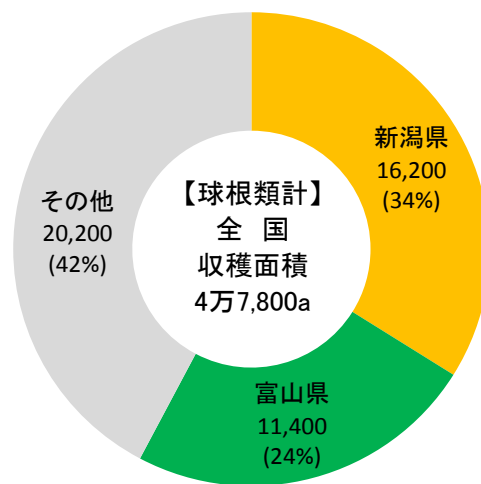
北陸の花きの産出(出荷)額の推移^{[1][2][3]}



花きの種類別産出(出荷)額の構成割合^[1]



球根類の収穫面積割合^[4]



データの出典:[1]農林水産省「花木等生産状況調査」、[2]花木類、芝、地被植物(出荷額)は農林水産省「花木等生産状況調査」、切り花類、鉢ものの類、花き苗類、球根類(産出額)は農林水産省「生産農業所得統計」、[3]その他には花き苗類、花木類、芝、地被植物類が含まれる
[4]農林水産省「花き生産出荷統計」

求められる技術開発の主な内容

- ・低コスト、高品質・安定生産技術の開発
- ・温暖化、高温対応栽培技術の開発

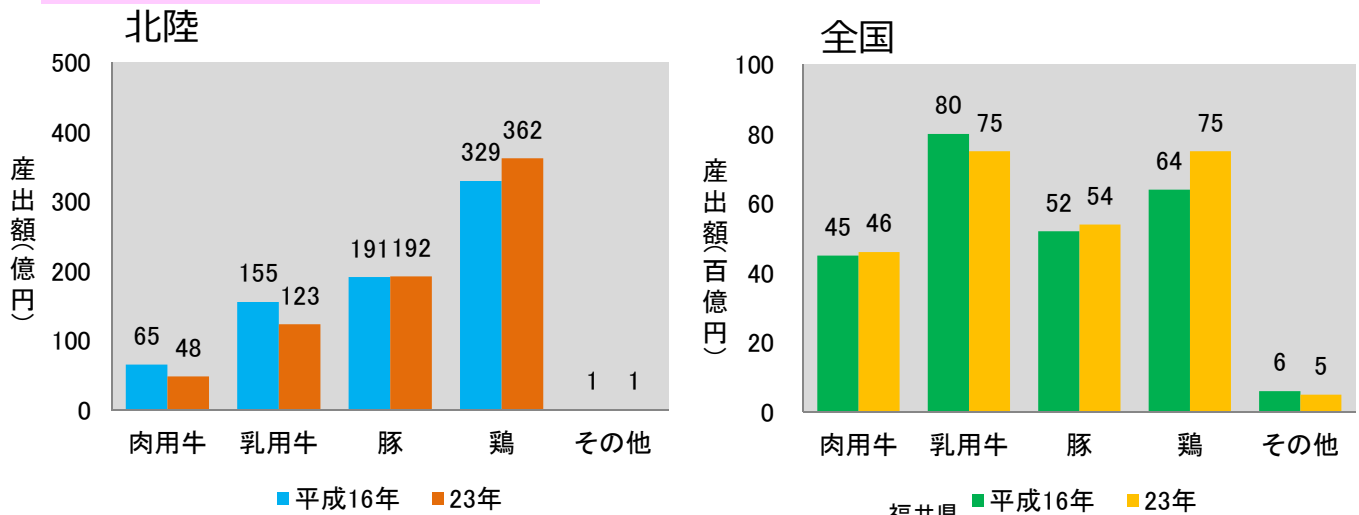
(6) 畜産

平成23年の畜産物産出額は725億円で、全国(2兆5,509億円)の3%を占めている。

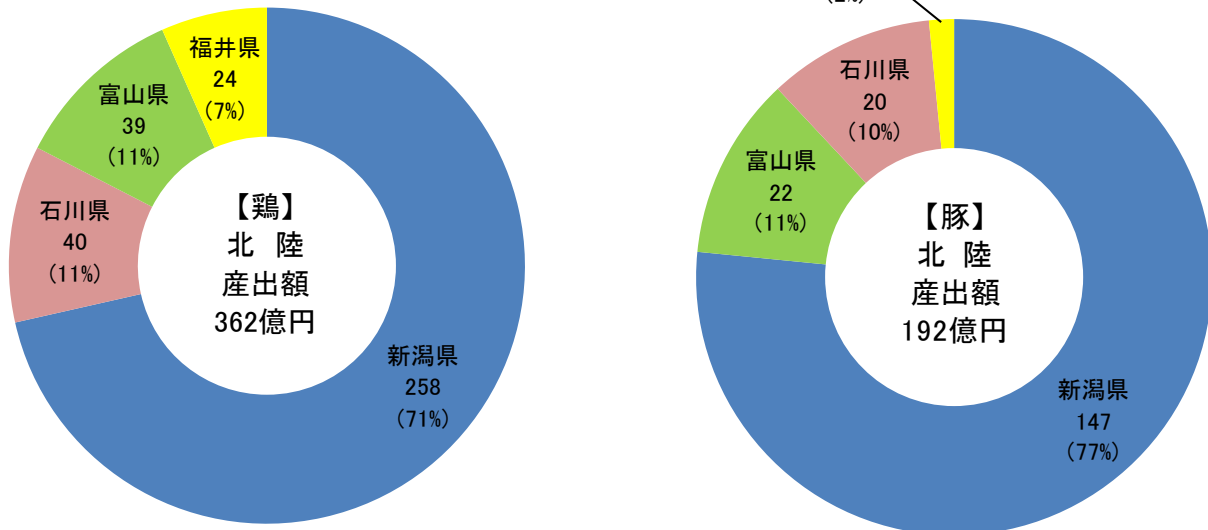
品目別では鶏(362億円)の産出額が最も多く、北陸の畜産物全体の約半分を占める。畜産物合計の県別では、新潟県が497億円で北陸全体の7割近くを占め、次いで石川県(94億円)、富山県(90億円)、福井県(43億円)と続いている。

また、牛肉のブランド化(にいがた和牛、とやま牛、能登牛、若狭牛など)を各県で推進している。

畜産物の品目別産出額の推移⁽¹⁾



畜種別県別産出額⁽¹⁾



データの出典:[1]農林水産省「生産農業所得統計」

求められる技術開発の主な内容

- ・低コスト飼料生産技術、家畜の高温ストレス対応技術など家畜飼養技術の高度化と畜産物の安定生産技術の開発